日本気象学会
1882 創立

天　気

1985年1月
Vol. 32, No. 1

巻頭言

—理事長就任にあたって—

理事長　山元龍三郎

日本気象学会第13期役員の改選に際して，理事会で私が新理事長に選出されました．伝統ある当学会の理事長として，私ごとき者はその器ではないと思っていましたが，理事全員の御推薦があったので，お引き受けする事としました．

日本気象学会は，3年前に創立100年を迎えて，西暦よりも一足早く，新しい世紀にはいりましたので，心を新たにして，学会の地盤を固めると共に，一層の飛躍が望まれています．気象学・大気物理学の科学・技術の最近の著しい進歩に対して，学会がその使命を十二分に果せるように配慮すべきだと考えています．

日本気象学会は，約4,000名の会員をもっていて地球物理学の分野では最大の学会であります．その活動の心臓部は，理事会と事務局であります．常任理事の大部分は，たとえば会計担当・気象集誌担当など実務をかかえていて，長期的・総合的視野からの計画立案がともすればなおざりになる心配がありました．今期の理事会では，直接実務を担当しない「総合計画担当理事」と「財務計画担当理事」を任命して，長期総合的見地からの問題解決や立案に当たって頂く事としました．

気象庁7階の当学会の事務局を訪ねた会員はお気付きだと思いますが，現在の2名の専任職員は目のまわるような多忙の毎日であり，大きい手抜かりが生じないのは，専任職員の努力の賜物であります．その点に対して，ワープロなどの導入など事務局体制の強化を考えています．

学会活動における重大関心事の一つは会員数の動向であります．数年前までは，当学会の会員数は着実に増加していましたが，最近は頭打ちないし微減という状況であります．これは，気象庁職員の定年退職者数の激増などのせいだと考えられます．しかし，気象に対する一般市民の関心が著しく高まって来ている事や，環境問題や土木工事計画において気象学の成果を積極的に取り入る場合が非常に多くなっているので，会員をさらに増やせる見込みが十分にあります．そのために，支部活動を充実させる事および「天気」に解説的な内容を多くするなどの努力をすべきだと考えています．特に「応用気象」の分野の会員からの投稿を大いに期待したいと考えています．これらによって，気象学の普及という気象学会の本来の目的を十二分に果すと共に，会員数が増加するものと期待されます．

科学の国際性については，今さら申すまでもない事ですが，特に気象現象に国境がないなどのために，気象学については古くから国際協力が行われ，また国際会議が頻繁にもたれて来ました．近年，地球大気開発計画（GARP）や気候変動国際協同研究計画（WCRP）が計画・実施されて，その関連で，多くの国際会議が開かれ，わが国からの参加者も増える傾向にあります．しかし，若手の研究者の中には，立派な研究成果を挙げて国際会議で発表したいという意欲を持ちながら旅費を調達できないために，止むなく参加できないという場合も多々あります．また，気象学・大気物理学の第一線で活躍している外国の研究者が東京へ来た時，東京以外の地方へも招いて講演して欲しいと考えても，財源がないので断念したという事もありました．さらに，東南アジアなどの発展途上国の気象学発展に寄与すべきだという事な

ど，国際学術交流を促進する事は，当気象学会の使命の一つと考えています．

そのために，第12期に日本気象学会内に国際学術交流委員会が設けられて，その具体案が検討されて来ました．その第一の事業として，昨年1984年10月に，7名の当学会代表団が中国気象学会創立60年記念式参列を兼ねて，中国を訪問し，北京・南京などの気象局・大気物理研究所・大学の気象関係者と友好を深めて参りました．今年の秋には，中国気象学会からの代表団が，10月下旬の大阪での秋季全国大会の頃に訪日される予定であります．

国際学術交流の第二の事業として，今年夏ハワイで開かれる国際気象学・大気物理学協会総会(IAMAP)への若手出席者に対する旅費補助が，同委員会で検討されています．さらに，明年8月東京で開催される世界気象機関（WMO）主催の数値予報シンポジウムをより有意義なものにするために，当学会が積極的に応援する事も検討中であります．

このような事業を行うためには資金が必要であります．当学会の昨年の春季総会で承認された会費値上げの理由の一つとして，このような国際学術交流の促進が挙げられておりますので，会員の納入された会費の一部を国際学術交流に使用する事も考えられますが，それよりも理事会が中心となって，基金を作ってその利息により，国際学術交流事業を実施できるようになれば，理事長として大変よろこばしい事だと考えています．

新しい世紀の第一歩をふみ出した日本気象学会が，いよいよ発展して行くかどうかは，私共理事会の努力は勿論ですが，会員諸員の御協力による所も多いと存じます．当学会の運営などについて，今迄以上に忌憚のない御意見をお寄せ頂くよう，新しく理事長に就任した機会に，改めてお願いする次第であります．